

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (九州)	良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・年度末の異動や人口移動により、当店の合鍵、ゴム印、名札等、製造加工類が多く動いている。また、決算時期なので消費が増えている。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・今月の販売量は、量販店、コンビニエンスストア、ローカルスーパーとともに前年比5%の伸びとなっている。特に食パンの伸びが大きい。菓子パンと和菓子については若干の増加となった。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・中国クルーズ客船の寄港により中国人の観光客が増え、販売量の底上げをしている。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	来客数の動き	・来客数が格段に伸びている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・年度末の3月は会社を辞める方、異動の方への需要が多かった。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・客単価はまだ上がらないが、入店客数、買上客数とも前年実績を超過しており、消費者の購買意欲の改善がみられる。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・友の会DM催事と創業記念催事の同時開催を2回実施した。催事初日、土日の来店効果が出た。また、クレジット無金利、ポイントプラス等、客の消費意欲喚起により、新規の友の会会員と自社クレジット会員を得た。
		百貨店（経営企画担当）	販売量の動き	・足元の業績は堅調に推移しており、年末から年始にかけての落ち込みからやや回復傾向にある。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・ベースアップ等による先行きに期待している。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・近隣の競合店が2店舗閉店したので、客数が前年比100.2%と増加した。生鮮の青果の相場高で、生鮮食品は同109%で推移している。一方、一般食品、加工食品は、消費税増税前の駆け込み需要の反動減で同90%で推移している。トータル同104%と好調であり、生鮮品の構成比が高くなっているため良い傾向である。
		スーパー（総務担当）	それ以外	・前年は消費税増税前の駆け込み需要があったので単純比較は難しいが、一昨年の売上と比較しても好調に推移している。
		スーパー（業務担当）	お客様の様子	・衣料品は春物の動向が良く、新生活関連の商材も例年を若干上回るペースで推移している。季節商材は全体的に好調である。
		衣料品専門店（チーフ）	単価の動き	・前年は消費税増税前の駆け込み需要で売上が高かった。その反動減もあったが、増税から約1年経過し客の購買意欲も徐々に戻っている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月は客の購買意欲が高く、購入する人が多かった。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・1月に販売開始した新型車の受注が順調である。納車待ちが3か月先まであり、来月以降の売上確保に寄与している。
		住関連専門店（店長）	販売量の動き	・今月の中旬頃から気温が上がり、ようやく客の動きも良くなってきた。それに伴い、移動マーケットや新生活需要の商材が短期間で一気に売れた。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	お客様の様子	・3月の異動時期に入ったので、お世話になった方へのコーヒーギフトやプチギフトが頻繁に出ている。
		高級レストラン（支配人）	お客様の様子	・ランチ、ディナー共に単価の高いものが出ている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・個人客が若干増えている。会社でのグループ利用も多くなってきているため、多少良くなってきている。
		観光旅館組合（職員）	来客数の動き	・円安の影響で外国人旅行者が多い。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・中国、韓国、東南アジア諸国からのインバウンド客の増加、その人達の消費増加にかなり助けられている。
		都市型ホテル（副支配人）	単価の動き	・例年通りの団体は入っている。加えてインバウンドの増加により単価がアップしている。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・春休みの国内旅行を中心に需要増となった。海外旅行は、各地の政情不安により、燃油サーチャージ引き下げ効果が現れない。		

	タクシー運転手	来客数の動き	・3月は卒業式や歓送迎会など催し物が多く、12月に次いで忙しい月であった。前年並みの売上を確保できた。
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・自治体からは、地方創生に関連した大規模予算の受注が多く発生している。
	競馬場（職員）	単価の動き	・開催日数が少ない現状でも、前年の発売金を上回っている状況である。単価も上昇していることから、新規顧客参入というよりは景気回復による購買意欲増加と考えられる。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・3月は暇なときもあるが、卒業式シーズンなので3か月前より良いようだ。
	設計事務所（所長）	来客数の動き	・設計計画の相談が増えている。
変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・街なかのにぎわいや来店客数の様子から、新聞報道のような上向きの景気ではない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・前年は、消費税増税前の駆け込み需要により来街者が多かったが、今年はそれに遠く及ばない状況である。しかし、大分駅前広場のオープンや駅ビルのオープン等が控えているので、これから少しずつ良くなる。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・消費税増税分の値上げに客もだんだん慣れてきたところだ。しかし、我々商店街は顔なじみの客ばかりなので、増税分の値上げができない。
	一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・中央市場の青果相場は、入荷量が多いと通常の半額になり、北の地域の冷え込みが強いと、きゅうりなど通常の2倍になる。県内需要はかなり低い。
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	それ以外	・売れている店と売れていない店の格差がかなり大きくなっているようだ。二極化が進み、売れていない店は後継者もなく衰退している。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・例年と比べ売上は減少しているが客数はあまり変わらない。売上の減少は単価が低くなっているのが原因である。減少が続くことはないだろうが心配である。
	百貨店（店舗事業計画部）	お客様の様子	・前年は消費税増税前の駆け込み需要があったので、その実績を上回るのには厳しいが、通常期の伸び率は維持できており、商材によっては健闘しているものも多い。一方で、客のシビアな買い方は変わっておらず、春物衣料は着る期間が短いこともあり、気温の変化に対し慎重な動きが目立つ。
	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動減で、家具・布団等の大型商品の売上が苦戦しているものの、通常の商品は思ったほど苦戦していない。しかし、必要なものを必要な時に購入するという客の様子は変わらない。
	スーパー（店長）	単価の動き	・競合店の増加で数値的には厳しくなっているが、景況感は変わらない。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・前年は消費税増税前の駆け込み需要があったため、今年は非食品、衣料品等の売上が前年を割っている。食品は何とか維持しているが、最終的に前年の数字は達成できそうにない。ただし、一昨年に比べると悪くはない。
	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・前年は、消費税増税前の駆け込み需要が3月末に集中したが、前年比で売上に大きな減少はみられない。生鮮食品のウエイトが大きく、今後も前年比では大きな変動はない。
	スーパー（統括者）	販売量の動き	・前年同月比で売上高は減少している。
	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・客単価は前年をやや上回っているが客数が減り、売上は前年を下回っている。
	コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・前年3月は、たばこの値上がり前で客単価、売上が伸びた。しかし、その反動で今年は買い控えが続いている。一方、粗利が取れるカップコーヒーの販売量が前年より少し伸びている。全体の売上は、プラスマイナスであり変わらない。今から暖かくなるにつれ、客が増えるのに期待している。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・相変わらず客の出足が悪い。寒さの影響はまだ続きそうだ。
衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・春物のシーズン物が動き出した。前年に比べて天候がある程度落ち着いてきたので、特に高額商品に関しては購買欲が高いようだ。一般の価格帯の商品はそこまで売れていない。	

家電量販店（店員）	販売量の動き	・前年は消費税増税前の駆け込み需要により売上が大幅に伸びた。増税後、4～5月と若干落ち込んだが、7月から通常に戻った。その流れが3月まで続いている。	
家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・一人暮らし用の需要は例年ほどの盛り上がりを見せていない。	
家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動減で、売上の前年比が大幅にダウンした。テレビは健闘しているが、冷蔵庫、洗濯機、エアコン等の白物大型家電が大幅減となっている。	
その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（統括）	お客様の様子	・燃料油の小売価格は底打ちし、やや値上がり状況にある。定量・定額購入から満タン購入にシフトする顧客が増加したようだ。学校が春休みに入り、行楽客の燃料油購入、及び転勤等による異動顧客の燃料油購入が増加したようだ。	
その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	競争相手の様子	・昨年12月より、地元の特産品のさつま揚げの売上が例年より3割落ちている。他の競合店舗も同様に落ちており、先々が不透明である。	
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	販売量の動き	・既存店ベースでは、前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動減で苦戦している。ただし、インバウンドが取り込めている施設は前年を超えている。	
その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	来客数の動き	・前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動減で、売上は前年を大きく下回っている。一昨年比では若干下回っている。気温の低さもあり、衣料品が苦戦している。	
高級レストラン（専務）	来客数の動き	・3月は客数が増え売上が伸びる時期であるが、今年は、統一地方選挙を控え盛り上がりには欠けている。ただし、歓送迎会需要で、前年を若干下回る程度となりそうだ。	
都市型ホテル（販売担当）	販売量の動き	・ホテルは通常、3～4月ともに歓送迎会シーズンであるが、今年はあまり予約が入らず売上がマイナスになった。婚礼も同じように売上がマイナスで、今月はあまり良くない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・長崎は2月のランタンフェスティバル以降、盛り上がりには欠けていた。3月中旬以降は、大学受験等いろいろなイベントが重なりかなり良い状況になった。	
タクシー運転手	お客様の様子	・人の動きはあるようだが、タクシー利用はいつもとあまり変わらない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・新しい駅のオープンを控え様々な催しものがあるが、今一つ人が出が良くない。一方、夜の歓楽街は歓送迎会などで、幾分客の動きがあるようだ。	
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・販売の繁忙期だが、思ったほど市場に大きな動きがみられない。	
通信会社（業務担当）	販売量の動き	・3月は卒業シーズンで、他の時期と比較すると平日、週末ともに来客数、販売数が増えている。しかし、競合とのシェア争いで苦戦し、前年比でみると販売数は減少している。	
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・前年から、入札案件の減少が続いている。	
ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・入場者数は、地元客は伸びていないが、県外や台湾、上海、韓国等のインバウンドが伸びている。	
美容室（経営者）	販売量の動き	・客数が増加する春なので少し期待を持っているが、景気回復が地方の末端まで浸透していない。	
美容室（店長）	来客数の動き	・3月は卒業式で袴を着る人が増える程度で、来客数は変化がない。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・来客数が減っており、入店しても買物に結び付かない。非常にシビアな購買傾向が以前よりも顕著になっている。経済的に豊かな年齢層の購買意欲は低く、新たな消費につながらない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・地方では、景気回復の実感是一部の人たちにしかない。客は、無駄なものは買わず、必要なもののみ購入するという慎重な態度である。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・前年は消費税増税前の駆け込み需要があったので、前年比では比較しづらいが、前々年度よりは売上が上回っている。増税から約1年が経過し、良くなりつつある。高額品や外国人需要が非常に好調である。

	百貨店（営業統括）	お客様の様子	・3月に入り、前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動減もあるが、気温の低下もあり春物衣料品の動きが悪い。客は、中旬以降ようやく動き始めたが、購買には慎重な動きである。
	百貨店（企画）	販売量の動き	・前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動減で、売上が前年を下回っている。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・景気回復の兆しは少なく、買上点数も増加していない。厳しい状況が続くそう。
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・売上に波があり安定しない。売上が良い日は景気が良くなったかと思うが、判断に悩む。
	住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・今月、家具メーカーが倒産した。キャンペーンではそれなりに売れたが、来客数が少なく、店売りは全体的に良くない。
	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動減が見られる。
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・来月4月に統一地方選挙が2回あるため、客の動きが鈍く、今年は大口の送別会が少なかった。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・前年同月に比べ来客数、売上高ともにやや減少している。
	旅行代理店（企画）	来客数の動き	・海外の政情不安の影響がある。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	来客数の動き	・来客数、申込数が減少している。
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	それ以外	・年末以降、人材の流動が激しく、売上増加に必要な人的資源の確保が厳しい状況である。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・宅建住宅販売は、年度末に近いこともあり来客が減っている。来客が少ないため販売数も少なくなる。
	悪く なっている	百貨店（売場担当）	競争相手の様子
		スーパー（店長）	来客数の動き
			・今月、当店の売上見通しは前年比83%である。関連店は同91～98%となっている。売上の前年比の内訳をみると、店頭87%、外商71%、紳士服99%、婦人服83%、身の回り品82%、家庭用品77%、雑貨68%、宝石52%で減少している。唯一食品が、催事の効果でプラスとなっている。客単価は、非食品が92.5%、食品が98.7%といずれも前年を下回っている。
			・前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動減が大きく出ている。
企業 動向 関連 (九州)	良く なっている やや良く なっている		
	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年3月は、1～2月の反動もあり売上が増加する。今年は特に順調のようだ。加工原料用のハム、ソーセージ、冷食等の引き合いも強い。また、スーパー、居酒屋も、歓送迎会、花見等の行楽シーズンも重なり引き合いは強い。原料も確保できたため、販売、生産量とも順調な月になりそうだ。
	農林水産業（営業）	取引先の様子	・直近の荷動きは良いとみられる。
	繊維工業（営業担当）	それ以外	・ガソリン価格の低下や円安で良い影響が出ている。中国から仕事が戻りつつある。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・商業施設等に家具を収める取付職人や、搬入作業員等が大幅に不足している。関東の仕事が増えているため、地方の作業員や職人も駆り出されており、慢性的な人材不足となっている。既製品家具の売上は前年比で15%程度伸び、受注も増えているが手配に苦労している。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が若干伸びている。このまま増加すると期待できる。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・これまでの受注量は計画通りだったが、3月に入り20%ほど計画落ちになっている。次の4～5月の期間が非常に心配である。何とか受注量を確保したい。
	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・求人募集を出しても、応募が少なく人材の確保に苦労している。

	建設業（経営者）	競争相手の様子	・見積の引き合いが前月とほぼ同じである。景気はあまり変わらない。	
	通信業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・マイナンバー制の導入に対応したシステム改変等の需要が増加し、受注量も増えてきている。	
	金融業（営業）	取引先の様子	・比較的多くの業界で受注は好調である。設備投資も高い水準にある。	
	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・これまで低価格の清酒が売れていたが、高価格の清酒が徐々に売れ始めている。	
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・中小企業向けの補助金を活用した設備更新の依頼が多く、メーカーはもちろん販売施工会社の動きも活発である。今年度、倒産事例は1件もなかった。	
変わらない	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当社の製品は景気の影響をあまり受けない。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新商品はそこそこ動いているが、本来のカタログ商品や定番商品はあまり芳しくないようだ。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月は年度末で機械設備の投資が滞っている様子で、仕事も停滞気味であった。	
	その他製造業（産業廃物処理業）	受注価格や販売価格の動き	・ギリシャやアメリカの影響で価格が暴落したかと思えば、インドネシア鉱山のストで高騰したり、激しい相場の変動で市場価格が落ち着かない。	
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・荷物の動きは良くない。	
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・荷主から預かっている商品の荷動きが悪いままである。今のところ荷動きが良くなるような気配はない。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・住宅建設は下げ止まり傾向にあるほか、自動車販売も多少持ち直しているが力強さはやや欠ける。一方、パートタイムの募集が活発化しているなど、雇用・所得環境は改善してきている。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・家計では、まだ賃上げはないと思っている方も多く、変化はないと判断する。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先、特に物販関連の業種は低迷が続いている。消費税増税後、売上は現状維持か減少となっている。借入で赤字補てん資金を調達している状況である。	
	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・1～2月と比較してやや良い。	
	経営コンサルタント	それ以外	・企業を対象とした有料セミナーを実施したが、宣伝に力を入れ、著名な講師だったにも関わらず参加者は前年の半分以下だった。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・業況が大きく上向いている、あるいは厳しいという話を取引先から聞かない。	
	やや悪くなっている	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村は、児童・高齢者など国から義務化され、必要に迫られているもの以外には予算をつけないため、建設や調査の発注が減少している。そのため、売上が伸びない。
食料品製造業（経営者）		受注量や販売量の動き	・季節的に原料が品薄になっていることに加え、昨夏の天候不良の影響で原料が不足しているため、加工できる数量が減少した。	
金属製品製造業（事業統括）		受注価格や販売価格の動き	・設備投資の積極的な引き合い数が減少している。	
悪くなっている	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・完了した工事が多く作業員も空いてきている。例年なら繰り越し工事がある程度発注されるが、今年はない。そのため、車両・重機の整備点検や資材等の片付けをしている。	
雇用関連		-	-	
(九州)	やや良くなっている			
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人に対して求職者が追いつかない。前年6月ごろより潮目が変わり、完全に求職者の売り市場に変わっている。
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・新年度を控え、応募者数や問い合わせの多い月だった。さらに求人数も多く、求人誌のページ数が3割ほど多くなっていた。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・求人意欲が高いが人材不足のため、本来ならば受注できる仕事を断らざるを得ない企業が多数見受けられる。また、現在は業況が良いとする企業が多いものの、この状況がいつまで持続するか不安視している企業も見受けられる。	

	学校 [大学] (就職支援業務)	周辺企業の様子	・ 3月に入って企業の広報活動が始まったが、企業からの大学内での説明会開催希望が例年以上に多い。企業は、学生との接点の確保に強い意欲がある。
	学校 [専門学校] (就職担当)	求人数の動き	・ 関東地区からの求人が増えてきた。
変わらない	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ 求人数が前年比110%ぐらいで推移している。
	人材派遣会社 (営業)	雇用形態の様子	・ 正社員の雇用比率が確実に上昇している。
	求人情報誌制作会社 (編集者)	求人数の動き	・ 求人取扱件数が前年同期比で10%程度落ち込んでいる。同業者間の競争激化もあるが、労働集約型産業での採用難が大きな要因と考えられる。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・ 非正規雇用は増えても正規雇用が増えていない。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	周辺企業の様子	・ 大分駅の大型商業施設の開業など、一定の雇用と期待は見込まれる。しかし、求人募集の動向をみると契約、アルバイトが中心で、正社員を募集する企業や賃上げする企業は増えていない。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・ 新規求人数は前年同月比で2.4%増と4か月ぶりに増加したが、製造業においては原材料等の高騰の影響などもあり、同比で18.9%減少した。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・ 新規求人数は11～1月までの3か月の総数でみると、平成25年度は総数9903件に対し、平成26年度は総数10322件と微増している。一方、新規求職者は762人減である。
	民間職業紹介機関 (社員)	求人数の動き	・ 人の動きが少ない。
	民間職業紹介機関 (支店長)	求人数の動き	・ 景気上昇、賃金上昇、円安・輸出産業の好調などが報じられているが、派遣労働者の需要はほぼ横ばいである。
	学校 [専門学校] (就職担当)	求人数の動き	今年度の新卒求人数は、前年比107%である。次年度新卒採用については、就職協定の改定はあったものの、企業の人材確保の動きは早まっている。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-